

全経上級 199 回 理論模試 # 1 (提出期日 7 月 1 日)

※7/1以降でも、時間のある限り添削いたします(無理なケースもあります)

<全経上級の理論問題解答のポイント>

①専門誌の模範解答は専門学校講師数人が何度もチェックした解答です。あのような解答は本試験ではだれも作成できません。

②まず主語と述語を意識して簡潔に記す。
減価償却は費用配分の手続きである。

③修飾語を付け加える。
減価償却は取得原価を耐用年数にわたって配分する手続きである。

④さらに付け加えたい言葉があるときは、「さらに」「これにより」などで追記する。
減価償却は取得原価を耐用年数にわたって配分する手続きである。これにより適正な期間損益計算を実現する。

目標時間は 30 分です。

できれば何も見ずに解答して下さい。もしもテキストみる場合でも「丸写し」ではなく「自分の言葉」で記述するように心がけてください。

今回は試験に出そうな論点を複数出題します。この問題で、論点を押さえてください。

①発生主義会計は、継続企業の公準のもと、適正な期間損益計算を行う手段として用いられている会計方式であり、3つの計算原則を中心とした会計である。
そこで、3つの計算原則の名前と、その原則の説明をそれぞれ100字以内で簡潔に説明しなさい。

原則名：各2点、内容：各6点

| | |
|---------|-----|
| (1)原則名→ | 内容→ |
| (2)原則名→ | 内容→ |
| (3)原則名→ | 内容→ |

上記原則のうち収益の計上基準の名前を記すと共に、その2要件を記しなさい
(各2点)

(名前→)

(要件1→) (要件2→)

②工事契約における収益の認識基準を2つ述べなさい(各2点)

(イ)

(ロ)

(イ)の方法は成果の確実性が認められた場合に採用する方法であるが、成果の確実性が認められるためには、3つの要素について()をもって見積もることができなければならない

()にはいる文字を記しなさい(3点)

下線部の3つの要素について記しなさい(各2点)

() () ()

③「工事契約に関する会計基準」作成前は、上記両基準の選択制であった。「工事契約に関する会計基準」において、選択制が採用されなかった理由を50字以内で述べなさい。

(7点)